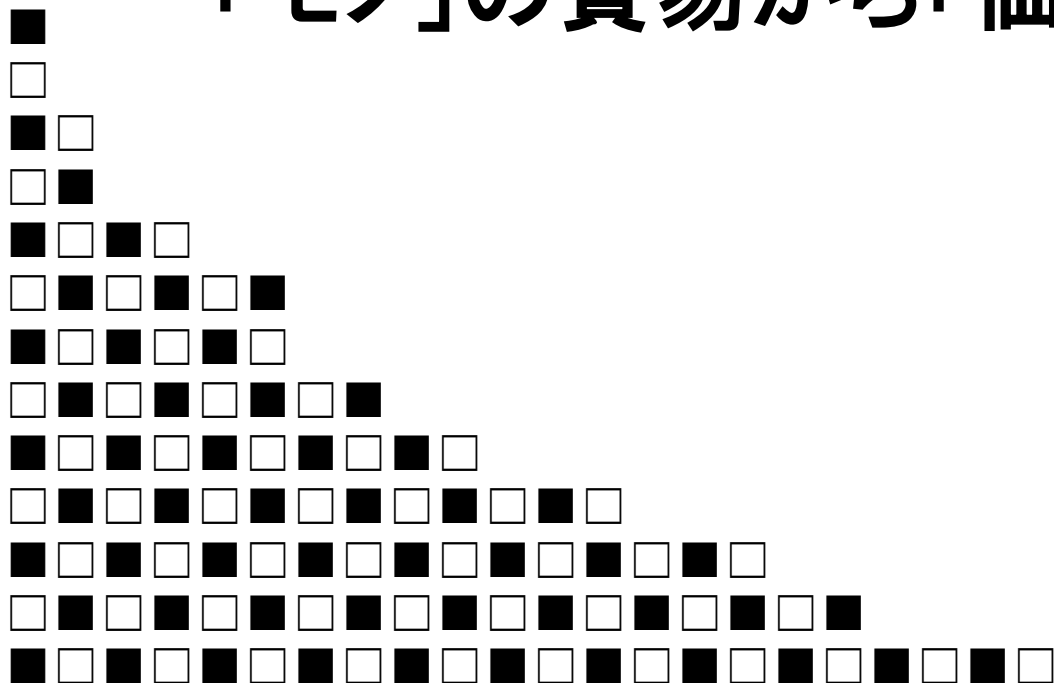


付加価値貿易

「モノ」の貿易から「価値」の貿易へ



日本貿易振興機構
アジア経済研究所
猪俣哲史



WORLD TRADE
ORGANIZATION

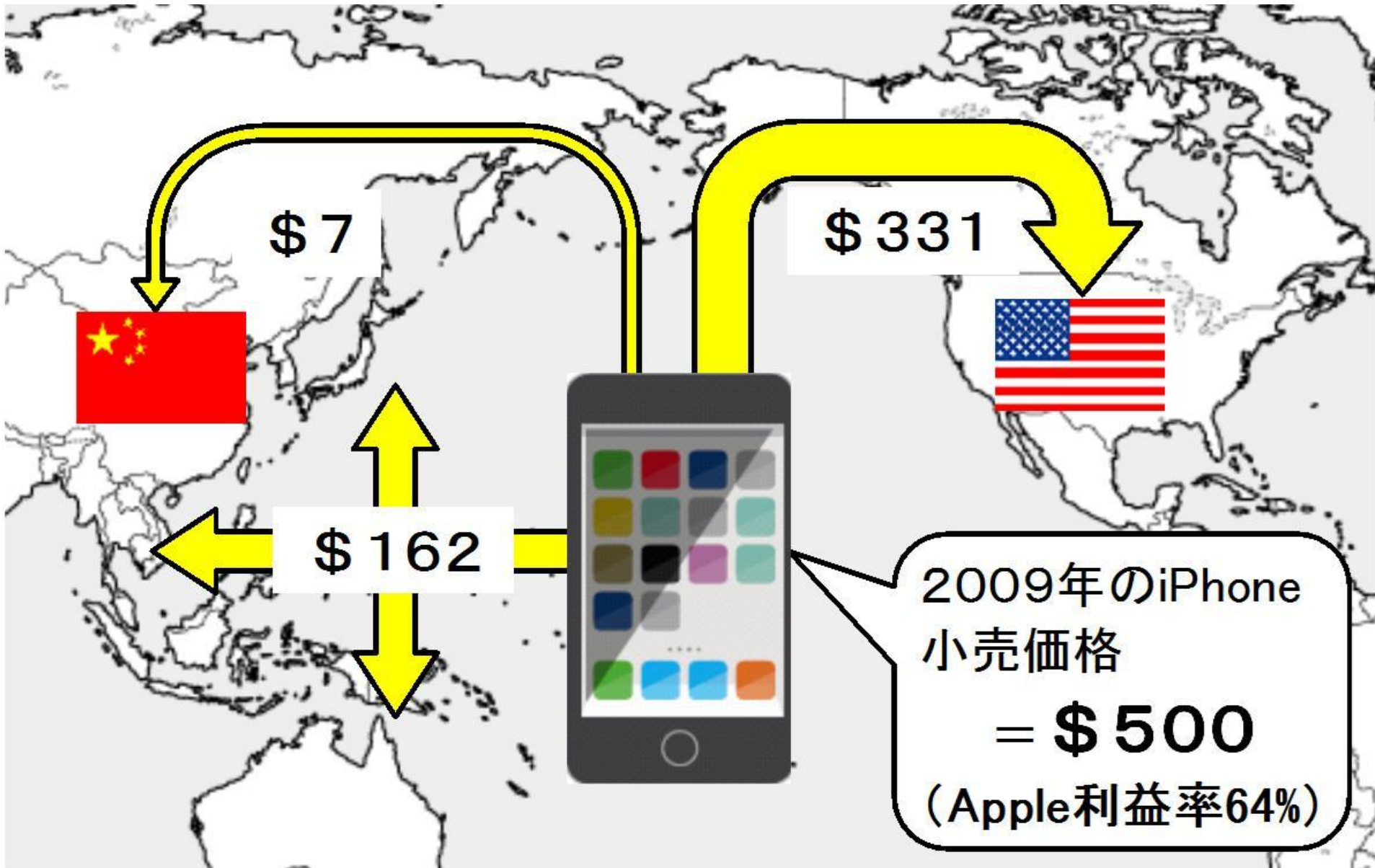
IDE-JETRO

Trade patterns and global value chains in East Asia:

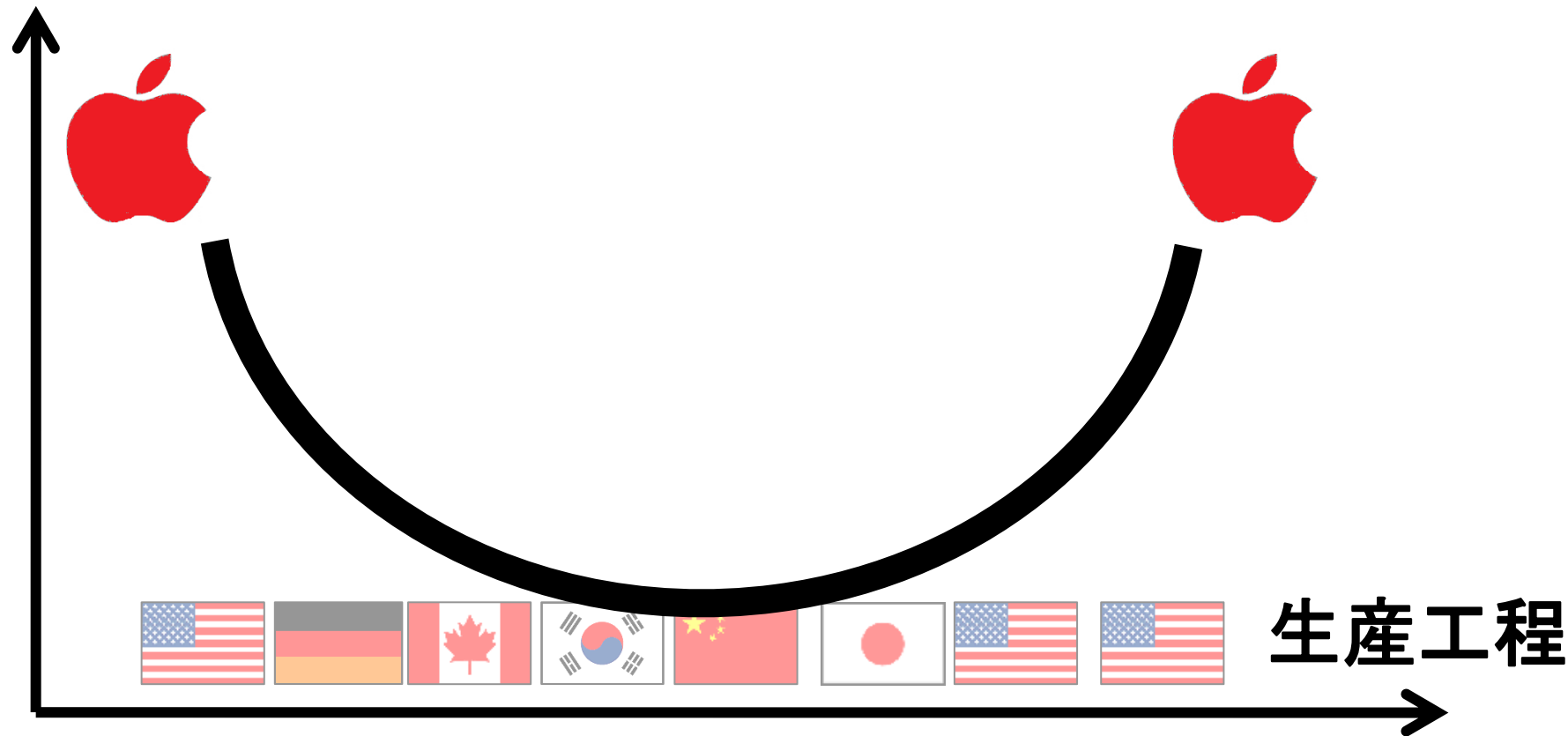
From trade in goods to trade in tasks



iPhoneの国際価値配分



付加価値



生産工程

商品企画

研究開発

デザイン

素材生産

部品生産

加工・組立

流通

営業・販売

サービス

保守・アフター

付加価値貿易とは

国際貿易をモノやサービスの流れではなく、それらの生産過程で付加された**価値の流れ**として捉えなおす。

国際価値連鎖分析に対する 従来のアプローチ

企業レベルのミクロ・データを用いた
サプライ・チェーン分析（Apple社）

問題点

- (1) マクロ視点で価値の流れを捉えられない。
- (2) 「営業利益」による近似でしかない。
- (3) 「Tier 1」の付加価値のみを対象。

国際価値連鎖分析に対する 従来のアプローチ

企業レベルのミクロ・データを用いた
サプライ・チェーン分析（Apple社）



国際産業連関分析

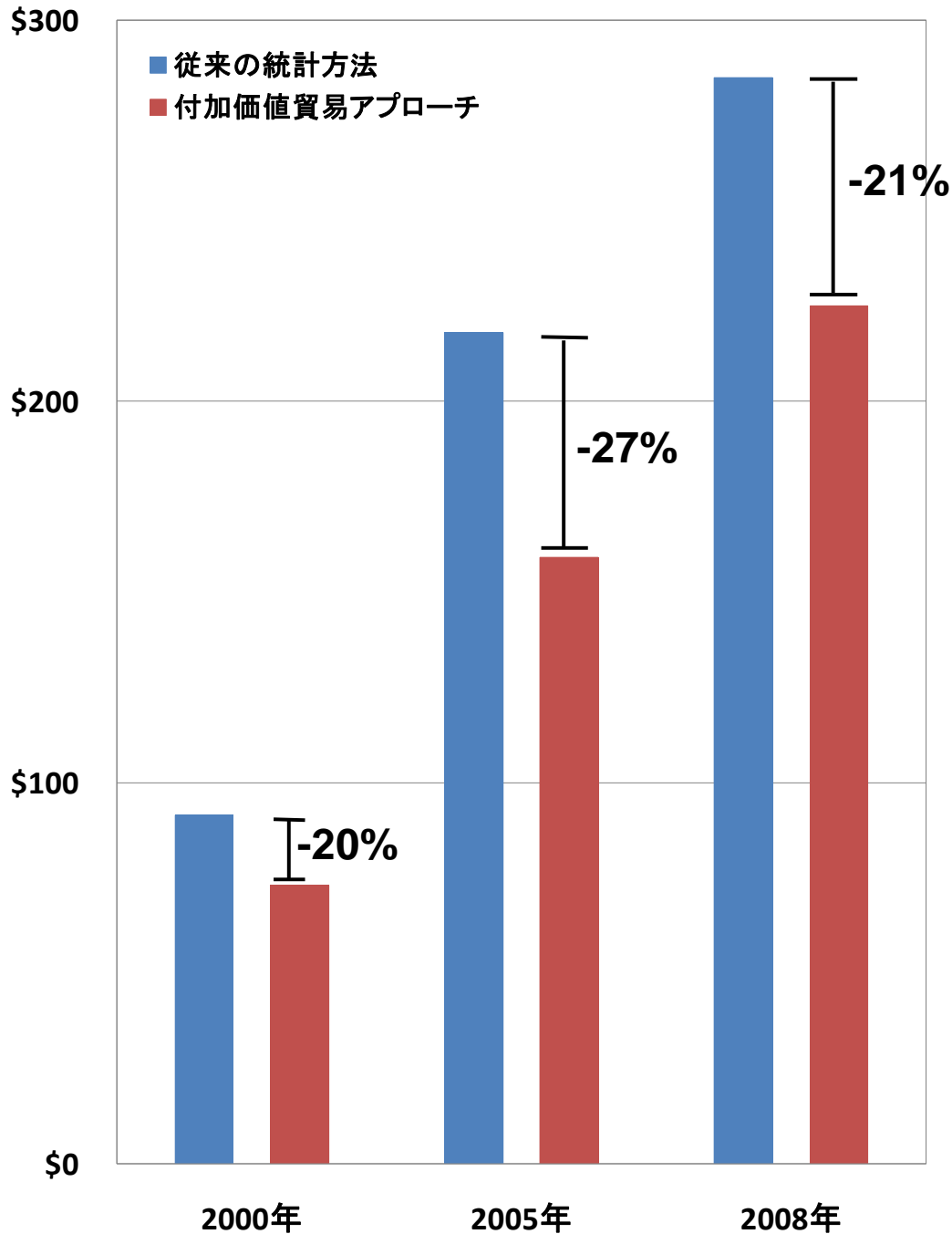
付加価値貿易の計測

<r国のs国に対する付加価値貿易(輸出)>

$$TiVA^{rs} = V^r \cdot L \cdot F^{*s} \quad (r \neq s)$$

ただし、 V^r はr国の付加価値係数(行)ベクトル、 L はレオンチェフ逆行列、 F^{*s} はs国の最終需要(列)ベクトルである。

米国の対中国 貿易赤字 (単位:10億米ドル)



出所: UN Comtradeを
もとにWTO試算

付加価値ベースの比較優位指標

(Meng, Yamano and Fang, 2012)

従来のBalassaモデル

$$RCA_i^r = \frac{EX_i^r / \sum_i EX_i^r}{\sum_r EX_i^r / \sum_r \sum_i EX_i^r}$$

付加価値ベースの比較優位指標

$$RCAVA_i^r = \frac{VA_i^r / \sum_i VA_i^r}{\sum_r VA_i^r / \sum_r \sum_i VA_i^r}$$

<分析結果 まとめ>

- ・中国の対米黒字(米国の対中赤字)は、従来の貿易統計で算出したもの比べると、付加価値ベースでは20~30%以上も低くなる。
- ・域内付加価値フローへの影響力について、20年間で米国と日本の存在が著しく後退したのに対し、中国の影響力が劇的に高まった。
- ・付加価値ベースの比較優位指標で、日本は従来の指標とほとんど差がないのに対し、中国は大きく数値を落としている(1995年)。しかし、その差は2005年において縮小している。